

令和 4 年 8 月 30 日

豊川市政記者クラブ加盟社 各位

株式会社東海理化電機製作所
愛知県が土壌汚染に関する情報を発表

愛知県は、令和 4 年 8 月 30 日に豊川市内にある株式会社東海理化電機製作所音羽工場で土壌汚染が生じていることについての発表を行いました。

これを受け、豊川市としても市政記者クラブ加盟社に対し、株式会社東海理化電機製作所音羽工場における土壌汚染の情報を同時発表いたします。

記

1 調査対象地・面積

調査対象地 = 株式会社 東海理化電機製作所 音羽工場
(豊川市赤坂町平山 1 番の一部)

調査対象地面積 = 14,674.36 m²

2 報告内容・今後の対応など

別添、愛知県が発表した資料のとおり

【お問い合わせ先】

●土壌汚染に関すること

愛知県東三河総局 県民環境部 環境保全課 環境保全グループ
電話 0532-52-1325

●豊川市の環境などに関すること

豊川市 産業環境部 環境課 (中西・安藤・宮本)
電話 0533-89-2141

2022年8月30日(火)
愛知県東三河総局県民環境部環境保全課
環境保全グループ
担当 藤田、遠藤
ダイヤル 0532-35-6112
愛知県環境局環境政策部水大気環境課
水・土壌規制グループ
担当 鈴木、福嶋
内線 3050、3008
ダイヤル 052-954-6225

豊川市における土壌汚染について

株式会社東海^{とうかい}理化^{りか}電機^{でんき}製作所^{せいさくじょ}(丹羽郡大口町)が、豊川市内の音羽^{おとわ}工場において、土壌汚染状況調査を実施したところ、土壌汚染が判明した旨、本日、愛知県に報告がありました。

県は、同社に対し、土壌汚染対策を適切に実施するよう指導してまいります。

1 報告内容

(1) 報告者

株式会社東海理化電機製作所

(2) 報告年月日

2022年8月30日(火)

(3) 汚染が判明した土地の所在地

株式会社東海理化電機製作所 音羽工場

愛知県豊川市^{あかさか}赤坂町^{ちやくぱく}平山^{ひらやま}1番の一部

(4) 報告の根拠

土壌汚染対策法(平成14年法律第53号。以下「法」という。)

(5) 調査結果

ア 土壌溶出量

次表のとおり法に規定する土壌溶出量基準を超過しました。

特定有害物質名	測定結果 最大値	土壌溶出量 基準	基準超過 土壌検出深度	超過区画数/ 調査区画数 ^{注2}
ふっ素及び その化合物	1.2mg/L (1.5倍) ^{注1}	0.8mg/L 以下	0~0.5m	1 / 158

注1:()内は土壌溶出量基準に対する倍率を示す。

注2:調査対象地を10メートル格子で分割した区画数

イ 土壌含有量

全ての調査地点で、法に規定する土壌含有量基準に適合していました。

ウ 地下水

全ての調査地点で、法に規定する地下水基準に適合していました。

(6) 当該地の現在の状況

汚染が判明した場所は、コンクリート舗装等で覆われており、汚染土壌の飛散や雨水等による汚染の拡散のおそれはありません。

2 今後の対応

事業者は、汚染土壌を全て掘削除去する予定です。

県は、事業者に対し、土壌汚染対策を適切に実施するように指導するとともに、周辺の飲用井戸の有無等を調査した上で、法に基づき土壌溶出量基準を超過した区画を要措置区域又は形質変更時要届出区域に指定します。

3 事業者の連絡先

株式会社東海理化電機製作所 総務部

住所 愛知県丹羽郡大口町豊田三丁目 260 番地 電話 0587-95-8192

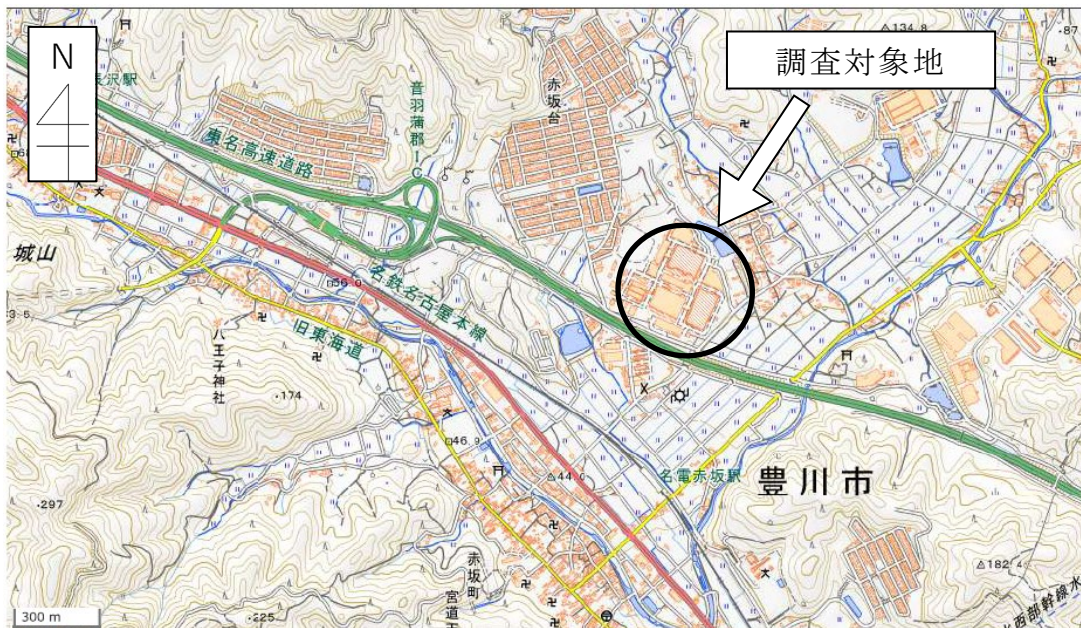
4 調査対象地の概要

(1) 面積

14,674.36 m²

(2) 調査対象地の利用状況

対象地は、1966（昭和 41）年から自動車部品の製造等を行っている株式会社東海理化電機製作所音羽工場の敷地の一部で、廃棄物置場や駐車場等として利用されています。事業所においてはふっ素及びその化合物の取扱履歴がありますが、それに係る施設等の異常、漏洩^{ろうえい}事故の記録はありません。



※背景地図は国土地理院の地理院地図を使用

参考

○ 基準を超過した特定有害物質について

- ・ ふっ素及びその化合物

ふっ素を継続的に飲み水によって体内に取り込むと、0.9～1.2mg/L の濃度で 12～46%の人に軽度の斑状歯^{はんじょうし}が発生することが報告されており、最近のいくつかの研究では、1.4mg/L 以上で、骨へのふっ素沈着の発生率や骨折リスクが増加するとされています。

なお、厚生労働省では、過剰摂取による健康被害の防止の観点から、栄養補助食品として用いるふっ素の上限摂取量を 1 日 4 mg 以下としています。

（参考：環境省水・大気環境局「土壌汚染に関するリスクコミュニケーションガイドライン」）